

卷末資料

① 市町別のごみ排出と処理状況

参考表1-1 ごみ排出状況（平成27年度）

市町名	総人口			外国人人口	ごみ総排出量				1人1日当たりの排出量 (g/人日)	自家処理量 (t)
		計画収集人口	自家処理人口		計画収集量	直接搬入量	集団回収量	合計		
	(人)	(人)	(人)		(t)	(t)	(t)	(t)		
松山市	517,263	517,263		2,851	118,128	36,635		154,763	817	
今治市	164,868	164,868		2,408	49,818	7,046	2,176	59,040	978	
宇和島市	80,611	80,611		375	26,151	676	1,546	28,373	962	
八幡浜市	36,809	36,809		121	12,345	1,738	69	14,152	1,050	
新居浜市	122,559	122,559		889	40,095	7,265	1,750	49,110	1,095	
西条市	112,262	112,262		959	37,127	7,132	1,197	45,456	1,106	
大洲市	45,689	45,689		135	13,658	1,080		14,738	881	
伊予市	38,307	38,307		205	10,685	1,034	443	12,162	867	
四国中央市	90,355	90,355		597	28,223	4,612	1,678	34,513	1,044	
西予市	40,556	40,556		246	9,312	584	712	10,608	715	
東温市	33,833	33,833		144	7,242	387		7,629	616	
上島町	7,275	7,275		282	1,987	789		2,776	1,043	
久万高原町	9,083	9,083		38	1,601	1,043		2,644	795	
松前町	30,942	30,942		115	10,523	373	423	11,319	999	
砥部町	21,643	21,643		44	4,993	1,403	154	6,550	827	
内子町	17,599	17,599		27	3,868	715		4,583	712	
伊方町	10,249	10,249		57	2,821	163		2,984	796	
松野町	4,217	4,217		54	1,085	113		1,198	776	
鬼北町	11,091	11,091		68	2,811	313		3,124	770	
愛南町	23,191	23,191		77	7,218	557		7,775	916	
合計	1,418,402	1,418,402		9,692	389,691	73,658	10,148	473,497	912	

参考表1-2 ごみ処理状況（平成27年度）

市町名	ごみ処理量											
	焼却処理量			資源化量				最終処分量			合計	
	直接 焼却量	中間処理後 残渣焼却量		直接 資源化量	中間処理後 再生利用量	集団 回収量	直接最終 処分量	焼却残渣 最終処分量	中間処理後 残渣最終 処分量			
	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)		
松山市	127,853	122,412	5,441	31,810		31,810		7,463	1,463	6,000		154,763
今治市	44,670	40,457	4,213	9,967	3,946	3,845	2,176	9,452	348	3,845	5,259	56,864
宇和島市	23,021	22,607	414	5,122	2,493	1,083	1,546	3,226	16	2,996	214	26,827
八幡浜市	10,808	10,677	131	2,837	1,478	1,290	69	1,499	65	990	444	14,083
新居浜市	40,634	36,605	4,029	8,048	2,081	4,217	1,750	2,664	1,267	949	448	47,360
西条市	35,209	33,387	1,822	4,638	2,149	1,292	1,197	9,466	4,274	3,772	1,420	44,259
大洲市	13,330	13,284	46	1,121		1,121		1,797	74	1,510	213	14,738
伊予市	9,637	9,412	225	2,056		1,613	443	1,678		1,209	469	11,719
四国中央市	29,353	26,895	2,458	4,849	1,020	2,151	1,678	2,200	1,194	1,006		32,835
西予市	7,633	7,633		2,743	1,287	744	712	464	230	232	2	9,896
東温市	5,682	5,462	220	1,255		1,255		1,353		661	692	7,629
上島町	2,037	2,009	28	484	349	135		400	207	88	105	2,776
久万高原町	1,956	1,912	44	605	45	560		289	83	206		2,644
松前町	7,893	7,848	45	3,007		2,584	423	1,420		1,001	419	10,896
砥部町				3,986		3,832	154	489	24		465	6,396
内子町	3,679	3,645	34	854	342	512		454		404	50	4,583
伊方町	2,201	2,201		451	296	155		530	275	201	54	2,981
松野町	982	982		156	130	26		182	60	122		1,198
鬼北町	2,474	2,469	5	251	200	51		707	395	308	4	3,124
愛南町	5,828	5,502	326	1,698	385	1,313		1,013	60	764	189	7,775
合計	374,880	355,399	19,481	85,938	16,201	59,589	10,148	46,746	10,035	26,264	10,447	463,346

② ごみ処理施設の設置状況

(1) 焼却施設

参考表2-1 ごみ焼却施設の設置状況（平成27年度）

	事業主体名	施設の名称	規模 (t/日)	炉数	処理方法	排ガス処理方式	竣工年月
西条	四国中央市	クリーンセンター	150	3	全連	バグ	2000年4月
	新居浜市	清掃センター	201	3	全連	バグ	2003年3月
	西条市	道前クリーンセンター	200	2	全連	バグ	1991年11月
今治	今治市	今治クリーンセンター	200	2	全連	バグ	1988年4月
	今治市	大島クリーンセンター	14	1	機バ	E P	1991年4月
	今治市	大三島クリーンセンター	11	1	機バ	E P	1987年10月
	今治市	伯方クリーンセンター	11	1	RDF	触媒、マルチ	2002年8月
	上島町	上島クリーンセンター	9	1	機バ	バグ	2008年3月
松山	松山市	西クリーンセンター	420	3	全連	バグ	2013年3月
	松山市	南クリーンセンター	300	3	全連	バグ	1994年3月
	東温市	クリーンセンター	22	2	機バ	バグ	1997年4月
	伊予地区ごみ処理 施設管理組合	清掃センター	80	2	准連	バグ	1977年4月
	砥部町	美化センター	23	1	RDF	触媒、マルチ	2001年4月
八幡浜	八幡浜市	南環境センター	84	2	全連	バグ	1997年4月
	西予市	西予市野村クリーンセンター	10	1	機バ	E P	1993年8月
	大洲市	大洲市環境センター	90	2	准連	バグ	1991年4月
	内子町	内子町クリーンセンター	21	2	准連	バグ	1998年12月
宇和島	宇和島市	宇和島市環境センター	120	2	全連	バグ	1984年9月
	宇和島地区広域事 務組合	鬼北環境センター	25	2	機バ	バグ	1990年4月
	愛南町	環境衛生センター	38	2	准連	バグ	1999年11月

(2) 再生処理施設

参考表2-2 廃棄物再生利用施設の設置状況（平成27年度）

	事業主体名	施設の名称	規模 (t/日)	処理内容	竣工年月	処理品目
西条	四国中央市	リサイクルプラザ	32	選別資源化	1997年3月	鉄、アルミ、ペットボトル、カレット(茶)、カレット(無色)
	新居浜市	リサイクルプラザ	42	選別資源化	1994年3月	鉄、アルミ、ペットボトル、プラスチック、カレット(茶)、カレット(無色)、カレット(その他)※ペットボトル以外は休止中
	新居浜市	リサイクル推進施設	19.5	選別資源化	2009年10月	鉄、アルミ、プラ製容器包装、カレット(茶)、カレット(無色)、カレット(その他)、不燃ごみ
松山	松山市	中島リサイクルセンター	3	選別資源化	2004年11月	鉄、アルミ、ペットボトル、カレット(茶)、カレット(無色)
	内子町	内子町リサイクルセンター	1.7	圧縮資源化	2008年4月	鉄、アルミ、ペットボトル、発泡スチロール
八幡浜	八幡浜市	リサイクルプラザ	11	選別資源化	1997年3月	鉄、アルミ
	伊方町	伊方町リサイクルセンター	1.2	選別資源化	2010年3月	鉄、アルミ、ペットボトル、プラスチック、ビン(茶、無色、その他)、発泡スチロール
宇和島	宇和島市	津島町リサイクルセンター	3	選別資源化	1995年3月	鉄、アルミ、ペットボトル
	愛南町	環境衛生センター リサイクルプラザ	12	選別資源化	1999年11月	鉄、アルミ、ペットボトル、発泡スチロール、カレット(茶)、カレット(無色)、蛍光灯、ダンボール、フロン

参考表2-3 汚泥再生処理センター（平成27年度）

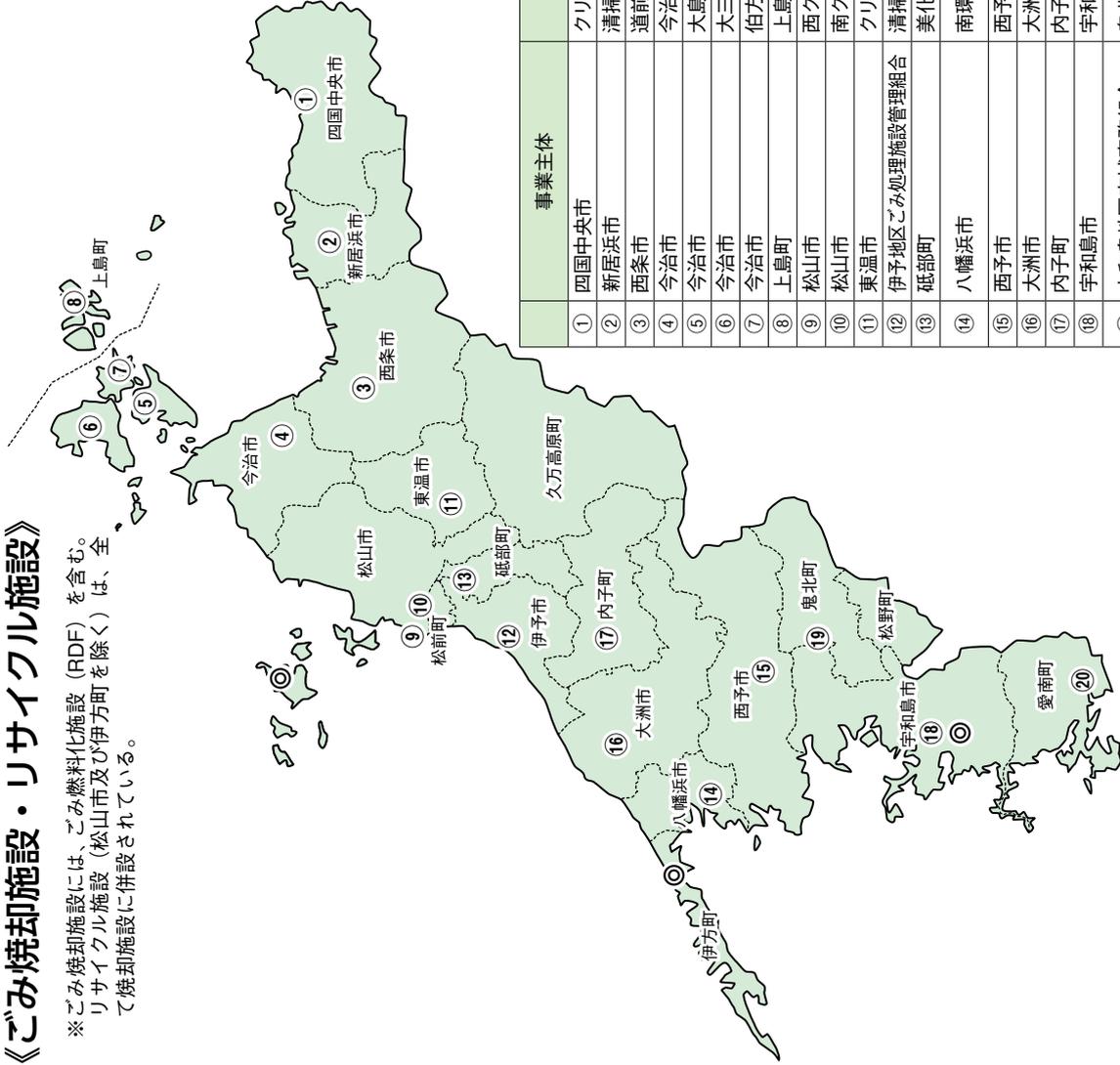
	事業主体名	施設の名称	規模 (t/日)	処理内容	竣工年月	処理品目
西条	四国中央市	エコピアひうち	33	肥料化	2000年4月	し尿、浄化槽汚泥、生ごみ
八幡浜	伊予市松前町 共立衛生組合	塩美園	68	肥料化	2000年4月	し尿、浄化槽汚泥、農集汚泥、生ごみ

参考表2-4 肥料化施設（平成27年度）

	事業主体名	施設の名称	規模 (t/日)	処理内容	竣工年月	処理品目
今治	今治市	クリーンシステム大三島	3,880	肥料化	2006年2月	し尿汚泥、農集汚泥、下水道汚泥、生ごみ

《ごみ焼却施設・リサイクル施設》

※ごみ焼却施設には、ごみ燃料化施設（RDF）を含む。
リサイクル施設（松山市及び伊方町を除く）は、全
て焼却施設に併設されている。



《リサイクル施設》

事業主体	施設名称	規模 (t/日)	処理内容	竣工年月
① 四国中央市	リサイクルプラザ	32	選別資源化	H9.3
② 新居浜市	リサイクルプラザ	42	選別資源化	H6.3
③ 新居浜市	リサイクル推進施設	19.5	選別資源化	H21.10
④ 松山市	中島リサイクルセンター	3	選別資源化	H16.11
⑤ 八幡浜市	リサイクルプラザ	11	選別資源化	H9.3
⑥ 伊方町	伊方町リサイクルセンター	1.2	選別資源化	H22.3
⑦ 内子町	内子町リサイクルセンター	1.7	選別資源化	H20.4
⑧ 宇和島市	津島町リサイクルセンター	3	選別資源化	H7.3
⑨ 愛南町	環境衛生センターリサイクルプラザ	12	選別資源化	H11.11
計				125.4

(◎は焼却施設に併設していない。)

《ごみ焼却施設》

事業主体	施設名称	規模 (t/日)	炉数	稼働方式	竣工年月	関係市町
① 四国中央市	クリーンセンター	150	3	全連	H12.4	四国中央市
② 新居浜市	清掃センター	201	3	全連	H15.3	新居浜市
③ 西条市	道前クリーンセンター	200	2	全連	H3.11	西条市
④ 今治市	今治クリーンセンター	200	2	全連	S63.4	今治市
⑤ 今治市	大島クリーンセンター	14	1	ハッチ	H3.4	今治市
⑥ 今治市	大島クリーンセンター	11	1	ハッチ	S62.10	今治市
⑦ 今治市	伯方クリーンセンター ※RDF	11	1	RDF	H14.8	今治市
⑧ 上島町	上島クリーンセンター	9	1	ハッチ	H20.3	上島町
⑨ 松山市	西クリーンセンター	420	3	全連	H25.3	松山市
⑩ 松山市	南クリーンセンター	300	3	全連	H6.3	松山市
⑪ 東温市	クリーンセンター	22	2	ハッチ	H9.4	東温市
⑫ 伊予地区ごみ処理施設管理組合	清掃センター	80	2	全連	S52.4	伊予市、松前町
⑬ 砥部町	美化センター ※RDF	23	1	RDF	H13.4	砥部町
⑭ 八幡浜市	南環境センター	84	2	全連	H9.4	八幡浜市
⑮ 西予市	西予市野村クリーンセンター	10	1	ハッチ	H5.8	西予市 (旧野村町、旧城川町を除く)、伊方町
⑯ 大洲市	大洲市環境センター	90	2	全連	H3.4	大洲市
⑰ 内子町	内子町クリーンセンター	21	2	全連	H10.12	内子町
⑱ 宇和島市	宇和島市環境センター	120	2	全連	S59.9	宇和島市 (旧三間町)、松野町、鬼北町
⑲ 宇和島地区広域事務組合	鬼北環境センター	25	2	ハッチ	H2.4	宇和島市 (旧三間町)、松野町、鬼北町
⑳ 愛南町	環境衛生センター	38	2	全連	H11.11	愛南町
計				2,029	38	

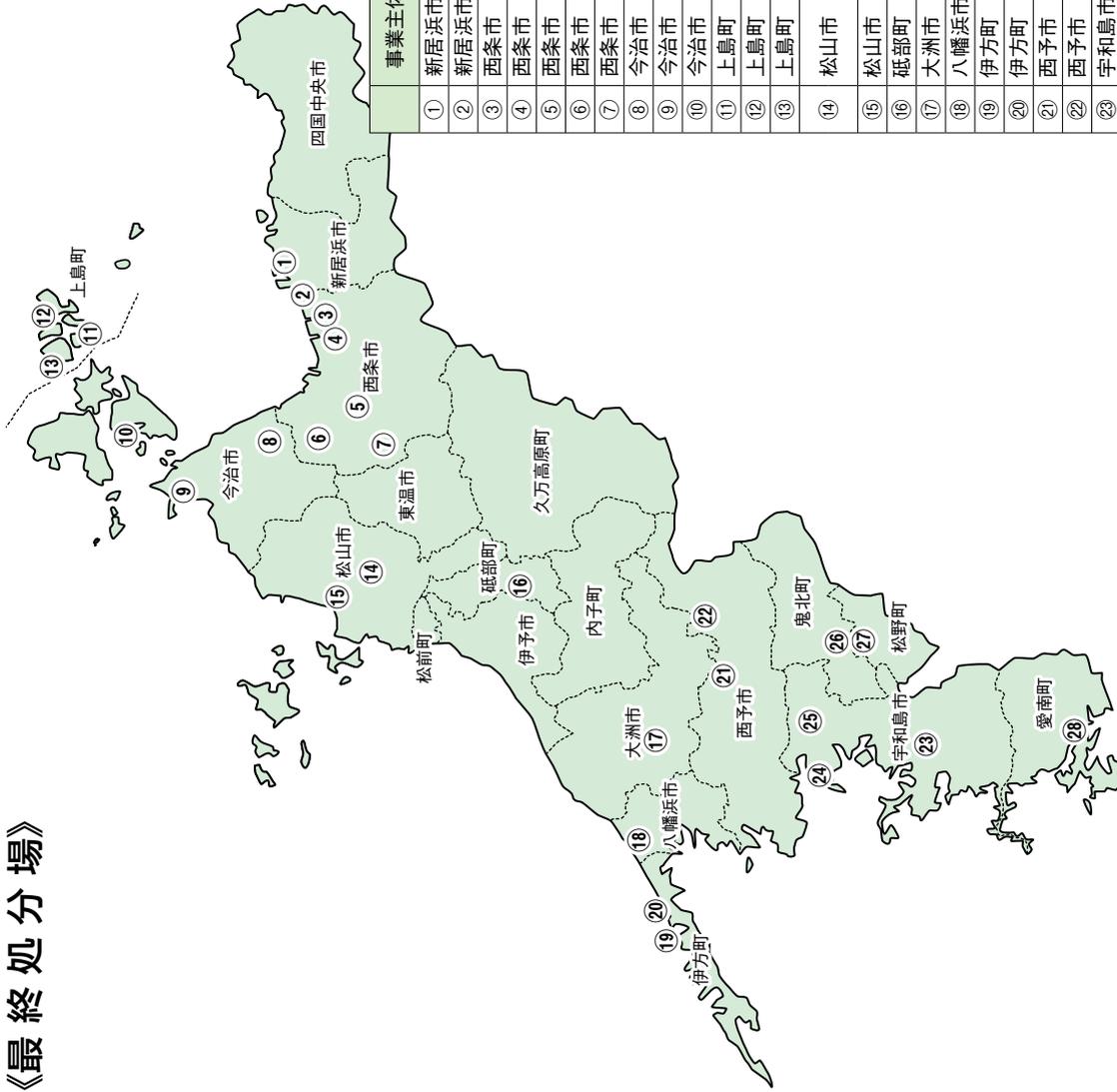
参考図2-1 ごみ焼却施設・リサイクル施設の設置状況 (平成27年度)

(3) 最終処分場

参考表2-5 最終処分場の設置状況（平成27年度）

	設置主体	処分場名	埋立開始年月	埋立容量 (m ³)	残余容量 (m ³)	埋立終了年度 (予定)	備考
西条	新居浜市	新居浜市最終処分場	2008年4月	363,116	354,517	2023	
	西条市	東部一般廃棄物最終処分場	2012年5月	58,700	56,874	2027	
	西条市	船屋一般廃棄物最終処分場	1971年6月	20,545	40	2018	
	西条市	東予一般廃棄物最終処分場	1994年4月	70,000	12,398	2019	
	西条市	丹原一般廃棄物最終処分場	2000年3月	16,000	11,252	2026	
今治	今治市	今治一般廃棄物最終処分場	1982年4月	395,170	3,158	未定	埋立不可
	今治市	波方一般廃棄物最終処分場	1998年4月	54,000	35,190	2025	
	今治市	大島一般廃棄物最終処分場（泊）	2001年4月	50,300	46,702	2019	
	上島町	佐島不燃物処理地	1984年4月	5,000	1,716	2018	
	上島町	生名不燃物処理地	1993年8月	5,000	242	2018	
	上島町	先田名後最終処分場	1990年4月	8,000	4,616	2024	
松山	松山市	横谷廃棄物センター	1972年10月	824,000	19,706	未定	休止中
	松山市	横谷埋立センター	2003年4月	550,000	407,382	2018又は 2041	
	松山市	大西谷埋立センター	1993年4月	150,000	53,453	2025	
	砥部町	千里埋立処分場	1993年6月	60,000	17,161	2021	
八幡浜	大洲市	大洲市不燃物処理地	1972年4月	211,300	67,973	2038	
	八幡浜市	一般廃棄物最終処分場	1998年4月	11,000	798	2019	
	伊方町	一般廃棄物最終処分場	2013年4月	19,700	15,761	2028	
	西予市	西予市野村不燃物処理場	1971年5月	38,000	20,333	未定	
	西予市	西予市惣川不燃物処理場	1972年7月	5,600	0	未定	
宇和島	宇和島市	宇和島市一般廃棄物最終処分場	1994年10月	132,000	40,500	2029	
	宇和島市	蛇堀不燃物最終処分場	1987年4月	81,600	47,882	未定	休止中
	宇和島市	是能不燃物処理場	1980年4月	18,550	1,480	2019	
	鬼北町	清水最終処理場	1973年7月	56,000	2,559	2018	
	松野町	塵芥処分場	1995年6月	7,000	525	2018	
	愛南町	環境衛生センター最終処分場	1999年9月	55,000	29,116	2020	
合 計				3,265,581	1,251,334		

《最終処分場》



事業主体	施設名称	種別	埋立開始年月	埋立面積 (m ²)	埋立容量 (m ³)	備考
① 新居浜市	一般廃棄物最終処分場	管理型	H5.4	29,000	345,900	終了
② 新居浜市	新居浜市最終処分場	管理型	H20.4	24,000	363,116	
③ 西条市	船屋一般廃棄物最終処分場	安定型	S46.6	5,600	20,545	
④ 西条市	東部一般廃棄物最終処分場	管理型	H24.5	4,255	58,700	
⑤ 西条市	小松一般廃棄物最終処分場	安定型	S58.8	7,421	22,731	終了
⑥ 西条市	東予一般廃棄物最終処分場	管理型	H6.4	13,600	70,000	
⑦ 西条市	丹原一般廃棄物最終処分場	管理型	H12.3	4,600	16,000	
⑧ 今治市	今治一般廃棄物最終処分場	管理型	S57.4	72,827	395,170	
⑨ 今治市	波方一般廃棄物最終処分場	管理型	H10.4	10,118	54,000	
⑩ 今治市	大島一般廃棄物最終処分場(泊)	管理型	H13.4	6,800	50,300	
⑪ 上島町	佐島不燃物処理地	安定型	S59.4	1,100	5,000	
⑫ 上島町	生名不燃物処理地	安定型	H5.8	2,000	5,000	
⑬ 上島町	先田名後最終処分場	安定型	H2.4	3,500	8,000	
⑭ 松山市	横谷埋立センター	管理型	H15.4	40,000	550,000	
⑮ 松山市	横谷廃棄物センター	管理型	S47.10	95,337	824,000	
⑯ 松山市	大西谷埋立センター	管理型	H5.4	20,200	150,000	
⑰ 砥部町	千里埋立処分場	管理型	H5.6	11,000	60,000	
⑱ 大洲市	大洲市不燃物処理地	安定型	S47.4	22,250	211,300	
⑲ 八幡浜市	一般廃棄物最終処分場	管理型	H10.4	2,300	11,000	
⑲ 伊方町	一般廃棄物最終処分場	管理型	H10.4	6,200	28,000	終了
⑲ 伊方町	一般廃棄物最終処分場	管理型	H25.4	4,300	19,700	
⑲ 西予市	野村不燃物処理場	安定型	S46.5	6,200	38,000	
⑲ 西予市	惣川不燃物処理場	安定型	S47.7	864	5,600	
⑲ 宇和島市	宇和島市一般廃棄物最終処分場	管理型	H6.10	21,000	132,000	
⑲ 宇和島市	蛇堀不燃物最終処分場	安定型	S62.4	5,060	81,600	
⑲ 宇和島市	是能不燃物処理場	安定型	S55.4	5,300	18,550	
⑲ 鬼北町	清水不燃物処理場	安定型	S48.7	9,180	56,000	
⑲ 松野町	塵芥処分場	安定型	H7.6	977	7,000	
⑲ 愛南町	環境衛生センター最終処分場	管理型	H11.9	9,700	55,000	
計				444,689	3,662,212	

参考図2-2 最終処分場の設置状況 (平成27年度)

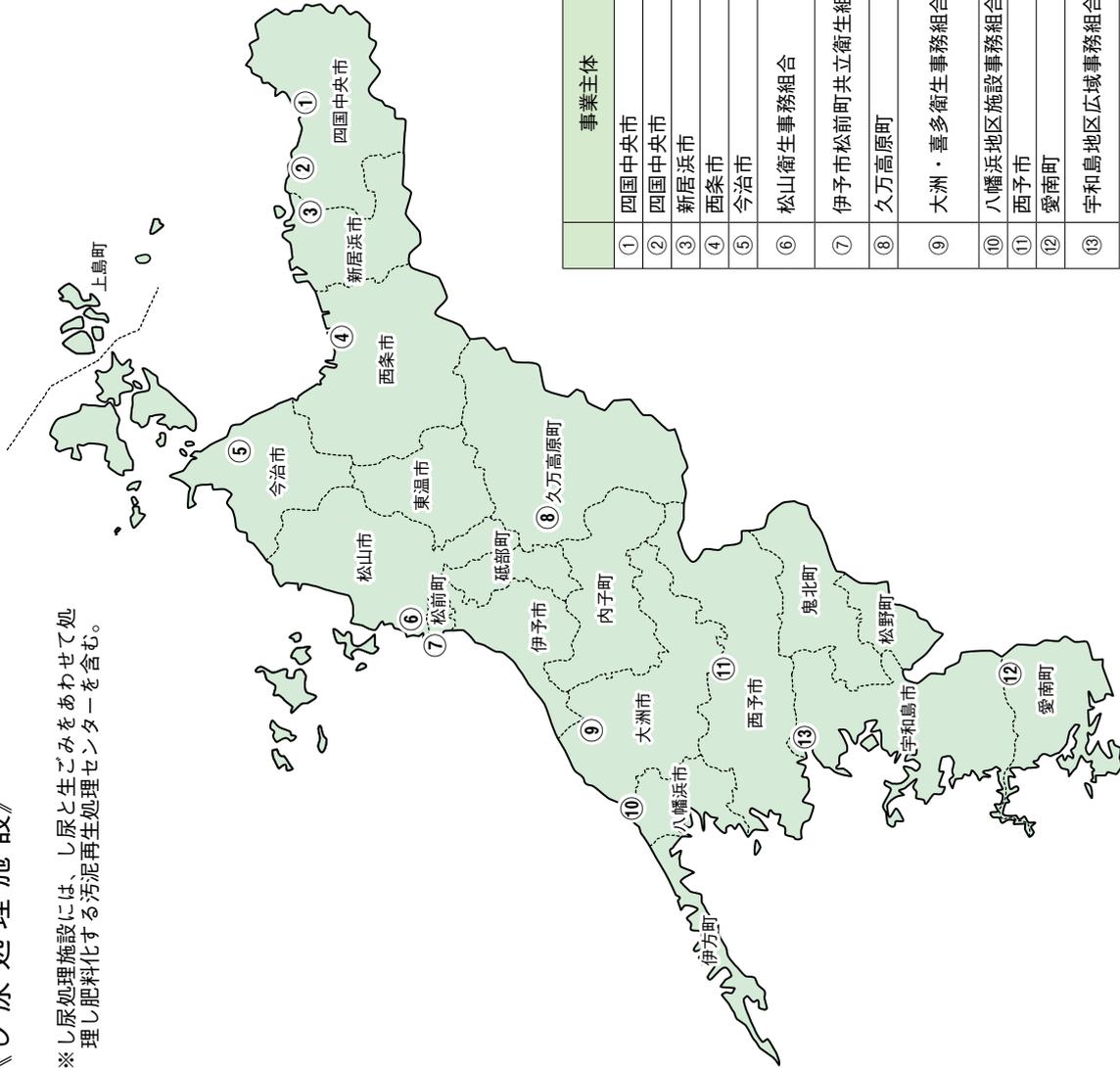
(4) し尿処理施設

参考表2-6 し尿処理施設（平成27年度）

	事業主体名	施設名	規模 (kL/日)	処理方式	設置年月
西 条	四国中央市	アイ・クリーン	35	高負膜分	1993
	四国中央市	エコトピアひうち	33	高負膜分	2000
	新居浜市	衛生センター	140	標脱	1990
	西条市	ひうちクリーンセンター	180	標脱	1979
今 治	今治市	今治衛生センター	80	高負膜分	2015
松 山	松山衛生事務組合	松山衛生事務組合立浄化センター	250	標脱	1984
			100	標脱	1996
	伊予市松前町共立衛生組合	塩美園	68	高負膜分	2000
	久万高原町	し尿処理施設	25	高負膜分	1997
八 幡 浜	大洲・喜多衛生事務組合	清流園	100	標脱	2000
	八幡浜地区施設事務組合	一楽園	52	標脱	1986
	西予市	西予市東部衛生センター	40	標脱	1980
宇 和 島	宇和島地区広域事務組合	クリーンセンター	175	標脱	1994
	宇和島地区広域事務組合	汚泥再生処理センター	220	高負膜分	2015
合 計			1,498		

《し尿処理施設》

※し尿処理施設には、し尿と生ごみをあわせて処理し肥料化する汚泥再生処理センターを含む。



事業主体	施設名称	規模 (kl/日)	竣工年月	関係市町
① 四国中央市	アイ・クリーン	35	H5.11	四国中央市
② 四国中央市	エコトピアひうち ※汚泥再生衛生センター	33	H12.4	四国中央市
③ 新居浜市	衛生センター	140	H2.4	新居浜市
④ 西条市	ひうちクリーンセンター	180	S54.4	西条市
⑤ 今治市	今治衛生センター	80	H27.3	今治市
⑥ 松山衛生事務組合	松山衛生事務組合立浄化センター	250 100	S59.3 H8.3	松山市、東温市、砥部町 (旧広田村を除く)
⑦ 伊予市松前町共立衛生組合	塩美園 ※汚泥再生	68	H12.4	松前町、伊予市 (旧双海町、旧中山町を除く)
⑧ 久万高原町	し尿処理施設	25	H9.4	久万高原町
⑨ 大洲・喜多衛生事務組合	清流園	100	H12.4	大洲市、伊予市 (旧双海町、旧中山町)、砥部町 (旧広田村)、内子町
⑩ 八幡浜地区施設事務組合	一楽園	52	S61.2	八幡浜市、伊方町
⑪ 西予市	西予市東部衛生センター	40	S55.2	西予市
⑫ 愛南町	愛南町クリーンセンター	42	H6.4	愛南町
⑬ 宇和島地区広域事務組合	汚泥再生処理センター	220	H27.8	宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町
計		1,365		

参考図2-3 し尿処理施設の設置状況 (平成27年度)

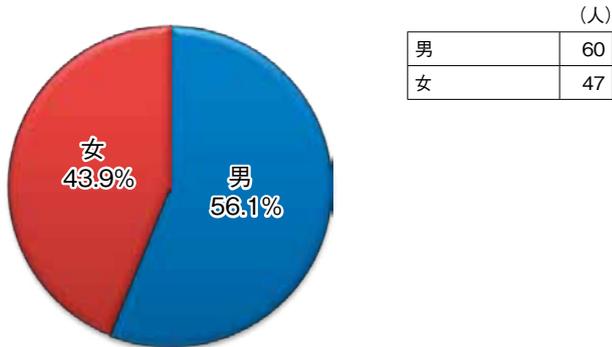
④ 循環型社会の形成に関するアンケート調査結果

(1) 調査概要

- 調査対象：県政モニター
- 回答率 46.5% (107名/230名)
- 調査実施期間：平成28年7月～8月

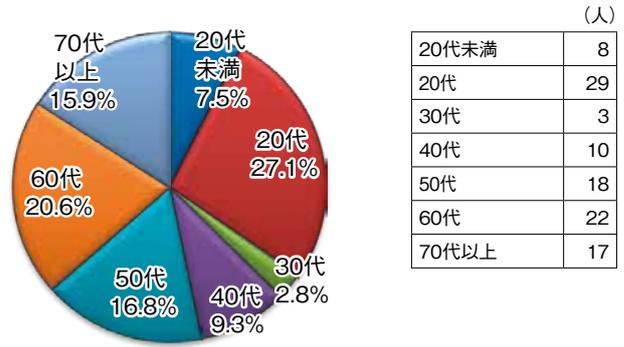
I. 回答者の属性

1. 性別



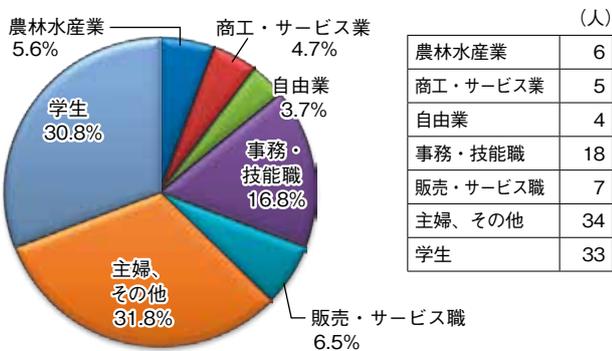
男性が60名(56.1%)、女性が47名(43.9%)となっている。

2. 年齢階層別



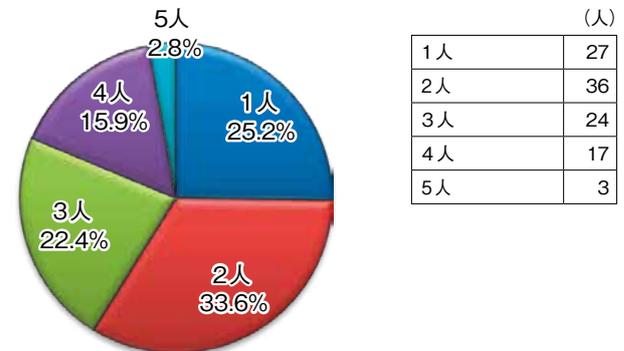
20代が29名(27.1%)と最も多く、次いで60代が22名(20.6%)となっている。

3. 職業



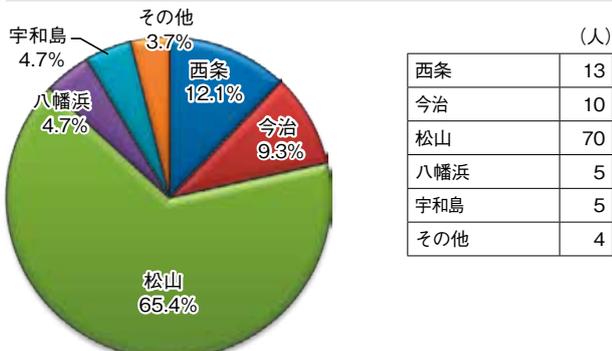
主婦、その他が34名(31.8%)と最も多く、次いで学生33名(30.8%)、事務・技能職18名(16.8%)の順となっている。

4. 世帯人数



2人が36名(33.6%)と最も多く、次いで1人が27名(25.2%)、3人が24名(22.4%)の順となっている。

5. 居住地 (ブロック別)



松山ブロックが70名(65.4%)と最も多く、次いで西条ブロックが13名(12.1%)、今治ブロックが10名(9.3%)の順となっている。

※各ブロックの構成市町は以下のとおり

- 西条ブロック・・・新居浜市・西条市・四国中央市
- 今治ブロック・・・今治市・上島町
- 松山ブロック・・・松山市・伊予市・東温市・久万高原町・松前町・砥部町
- 八幡浜ブロック・・・八幡浜市・大洲市・西予市・内子町・伊方町
- 宇和島ブロック・・・宇和島市・松野町・鬼北町・愛南町

II. アンケート結果

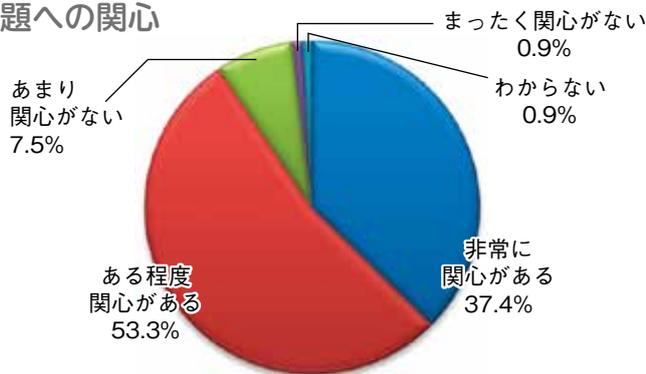
問1

あなたは、ごみ問題にどの程度関心がありますか。
次の中から一つ選んでください。(%)

- 1 非常に関心がある (37.4)
- 2 ある程度関心がある (53.3)
- 3 あまり関心がない (7.5)
- 4 まったく関心がない (0.9)
- 5 わからない (0.9)

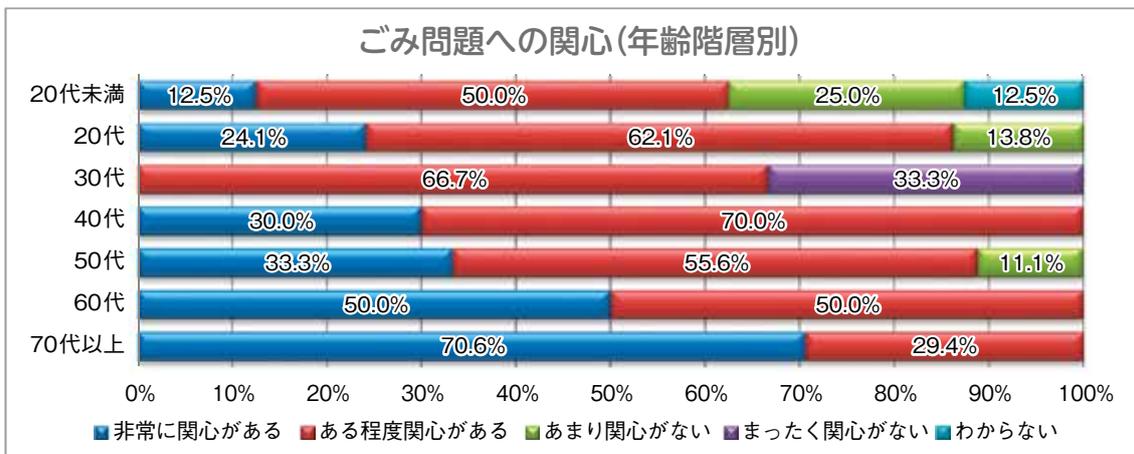
(1) 全体データ

ごみ問題への関心



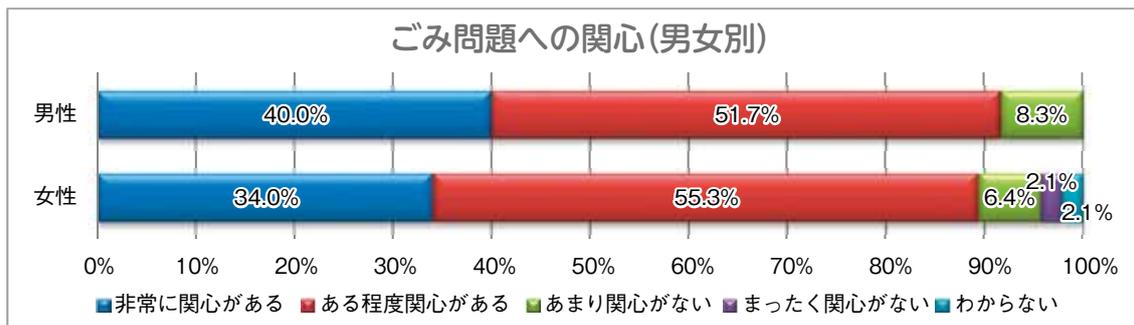
ごみ問題に「非常に関心がある」37.4% (40名)と「ある程度関心がある」53.3% (57名)を合わせると、90.7%がごみ問題に関心があると回答しており、ごみ問題への関心の高さがうかがえる。

(2) 年齢階層別データ



40代・60代・70代以上では、全員が「非常に関心がある」または「ある程度関心がある」と回答している一方、20代以下では25.0%・20代では13.8%が「あまり関心がない」と回答している。

(3) 男女別データ



男女とも「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると9割程度の人が関心があると回答している。

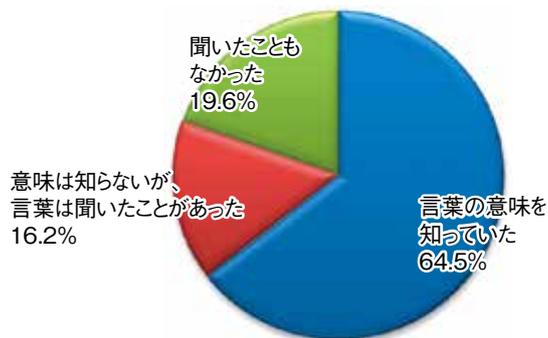
問2

あなたは、「3R」の言葉の意味を知っていますか。
次の中から一つ選んでください。(%)

- 1 言葉の意味を知っていた (64.5)
- 2 意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった (16.2)
- 3 聞いたこともなかった (19.6)
- 4 わからない (0.0)

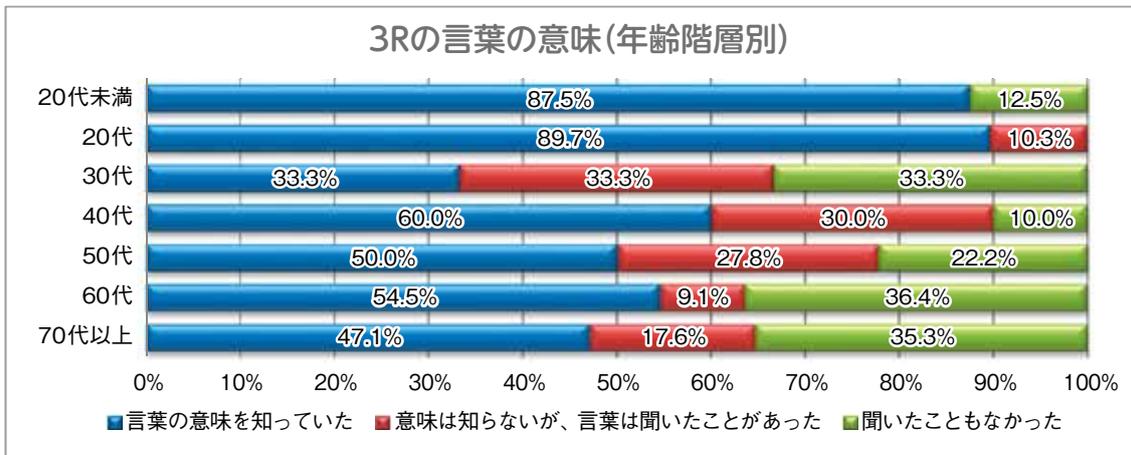
(1) 全体データ

3Rの言葉の意味



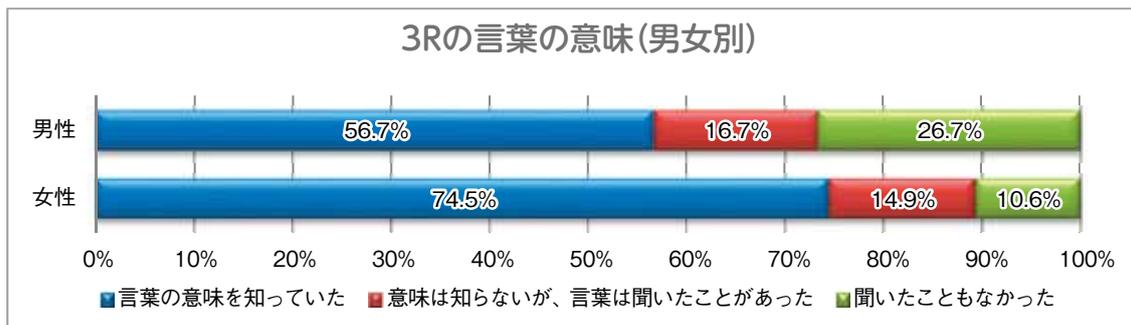
3Rの「言葉の意味を知っていた」が、64.5% (69名) と最も割合が高くなっている。
また、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」との回答が16.2% (17名) ある一方で、「聞いたこともなかった」との回答が19.6% (21名) であった。

(2) 年齢階層別データ



3Rの「言葉の意味を知っていた」との回答は、20代で89.7%、20代以下で87.5%と高い割合を占めている。一方で「聞いたこともなかった」との回答が60代では36.4% (8名)。70代以上では35.3% (6名) となっている。

(3) 男女別データ



3Rの「言葉の意味を知っていた」との回答は、女性で74.5% (35名) となっている一方、男性では「聞いたこともなかった」が26.7% (16名) となっている。

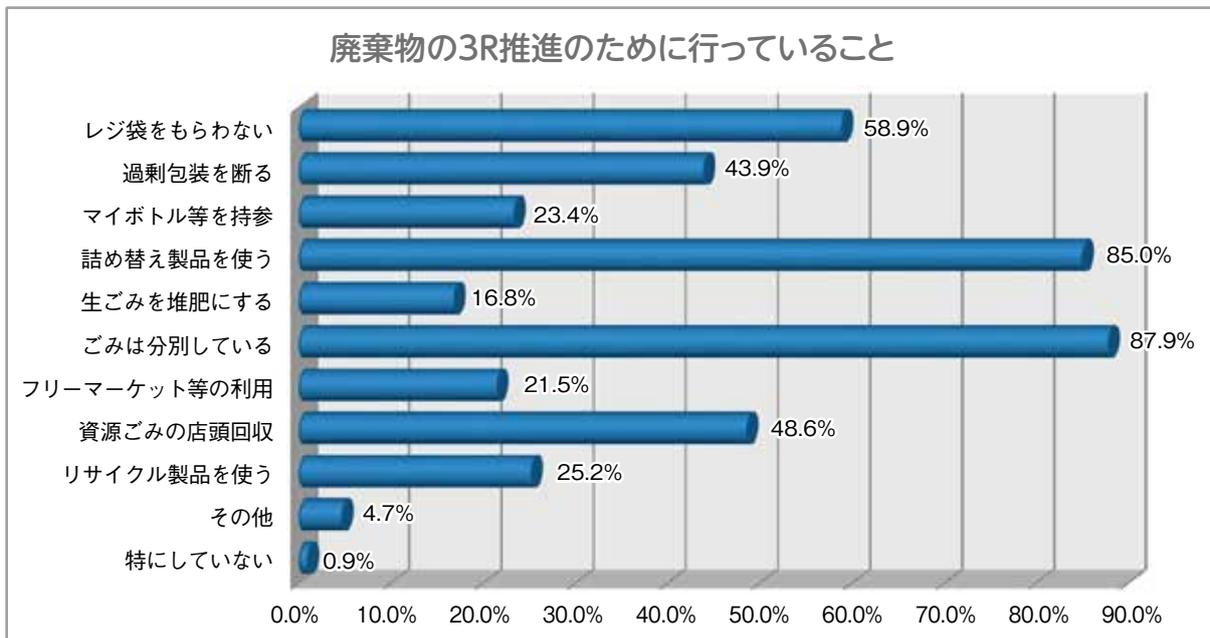
問3

あなたは、日頃の暮らしの中で、廃棄物の3Rを推進するために行っていることはありますか。

次の中であなたが行っていることをいくつでも選んで○を付けてください。(%)

- 1 買い物袋を持参したりして、レジ袋をもらわないようにしている (58.9)
- 2 店での過剰包装や不要な包装を断っている (43.9)
- 3 マイボトル、マイ箸、マイカップを持参している (23.4)
- 4 洗剤やシャンプーなどは、詰め替え製品を使うようにしている (85.0)
- 5 生ごみを堆肥にしている (16.8)
- 6 家庭で出たごみはきちんと種類ごとに分別して、定められた場所に出している (87.9)
- 7 中古品を扱う店やフリーマーケット等を利用している (21.5)
- 8 缶、びん、牛乳パックなど資源ごみの店頭回収に協力している (48.6)
- 9 リサイクル製品、リユース製品等を使っている (25.2)
- 10 その他 (4.7)
- 11 特にしていない (0.9)
- 12 わからない (0.0)

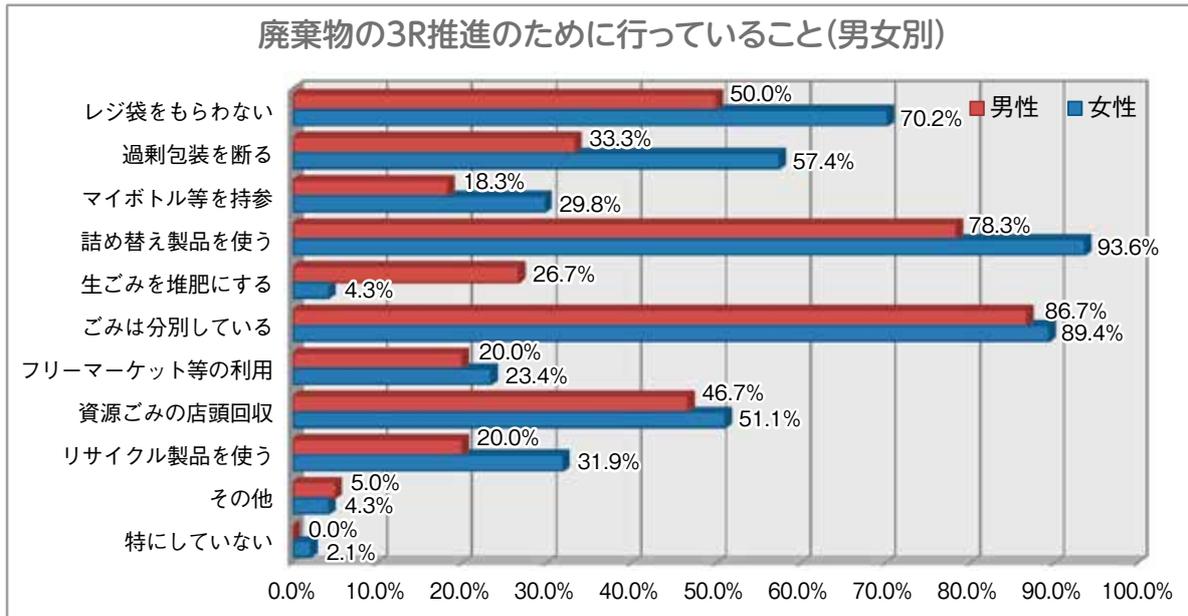
(1) 全体データ



「家庭で出たごみはきちんと種類ごとに分別して、定められた場所に出している」が87.9% (94名) と最も多く、以下、「洗剤やシャンプーなどは、詰め替え製品を使うようにしている」85.0% (91名)、「買い物袋を持参したりして、レジ袋をもらわないようにしている」58.9% (63名)、「缶、びん、牛乳パックなど資源ごみの店頭回収に協力している」48.6% (52名) となっている。

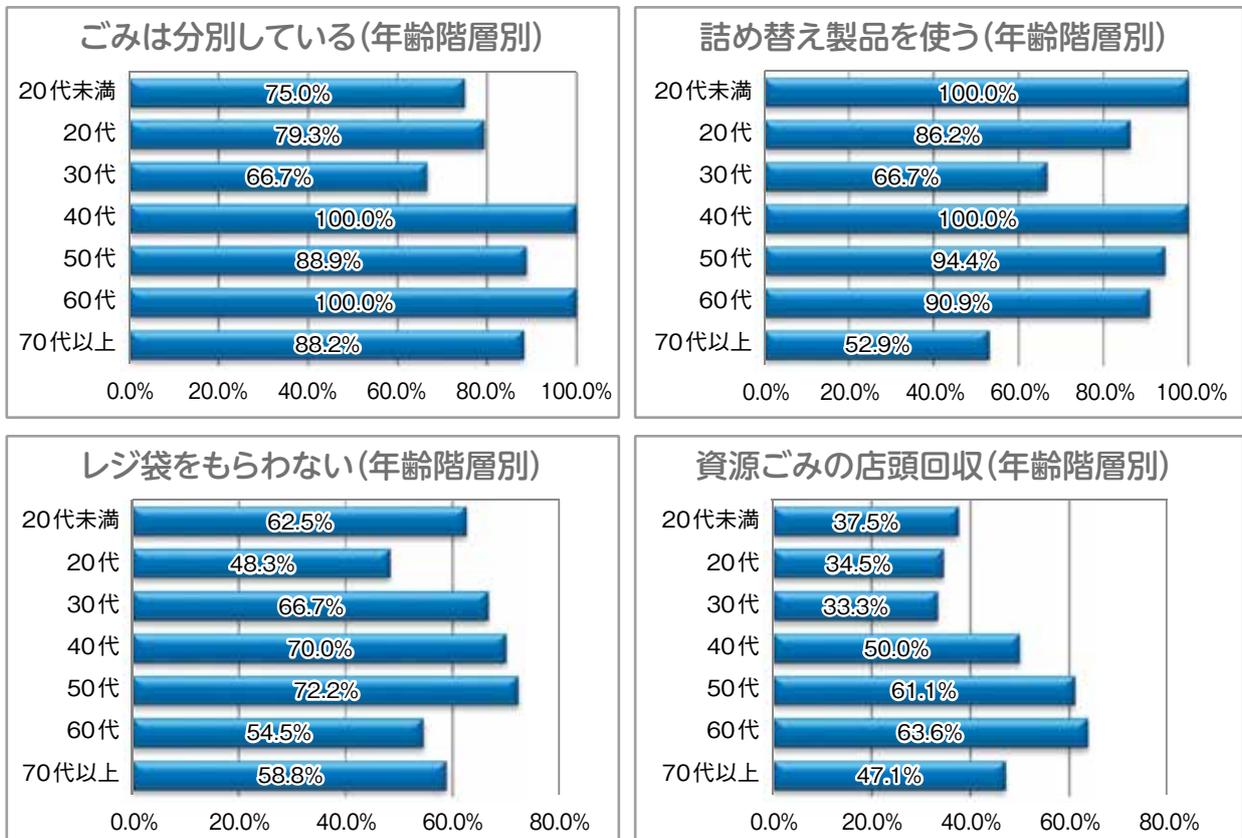
「特にしていない」は0.9% (1名) となっており、ほぼすべての回答者は日頃の暮らしの中で、何らかの3R推進活動に取り組んでいる。

(2) 男女別データ



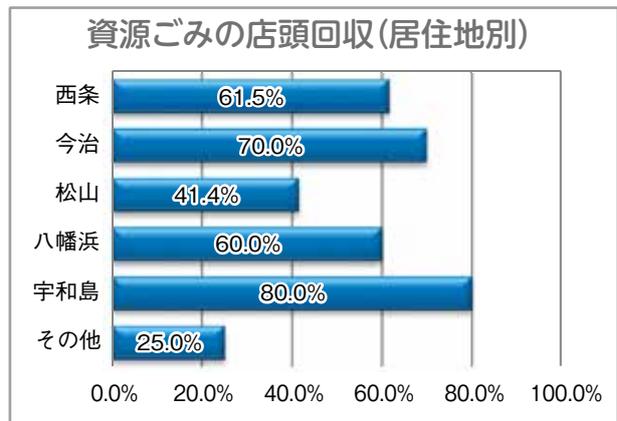
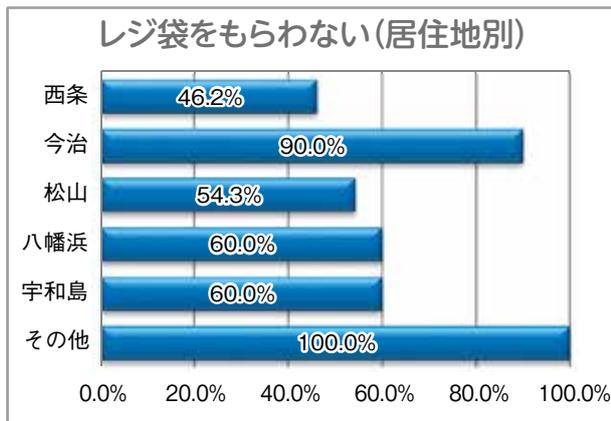
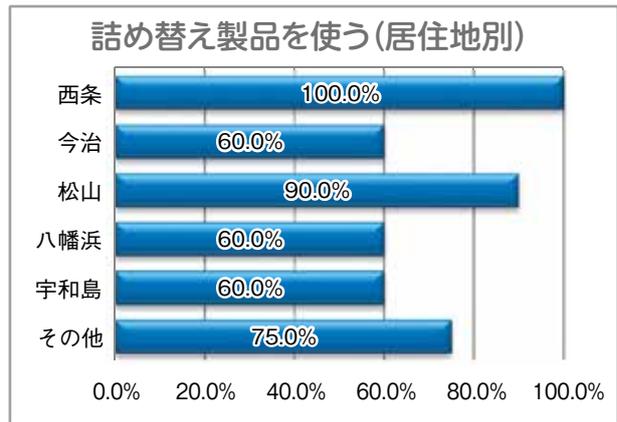
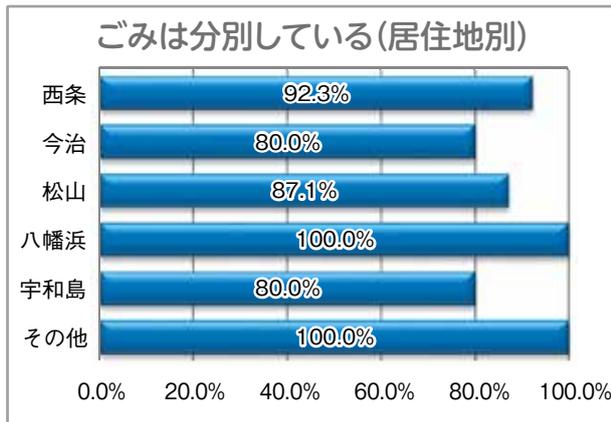
男女とも回答の多かった上位3項目は同じであり、男性では、「家庭で出たごみはきちんと種類ごとに分別して、定められた場所に出している」が86.7% (52名) と最も高く、次いで「洗剤やシャンプーなどは、詰め替え製品を使うようにしている」78.3% (47名)、「買い物袋を持参したりして、レジ袋をもらわないようにしている」50.0% (30名) となっている。また、女性では、「洗剤やシャンプーなどは、詰め替え製品を使うようにしている」が93.6% (44名) と最も高く、次いで、「家庭で出たごみはきちんと種類ごとに分別して、定められた場所に出している」89.4% (42名)、「買い物袋を持参したりして、レジ袋をもらわないようにしている」70.2% (33名) となっている。

(3) 年齢階層別データ



「家庭で出たごみはきちんと種類ごとに分別して、定められた場所に出している」は40代と60代で100.0%となっている。また、「洗剤やシャンプーなどは、詰め替え製品を使うようにしている」は70代以上を除く年代で2/3以上で行っているとの回答となっている。

(4) 居住地別データ



問 4

あなたは、スーパー等小売店でレジ袋の無料配布を中止する動きが全国的に広まっていることについて、どう思いますか。
次の中から一つ選んでください。(%)

- 1 賛成 (62.6)
- 2 反対 (9.3)
- 3 どちらでもない (26.2)
- 4 わからない (1.9)

(1) 全体データ

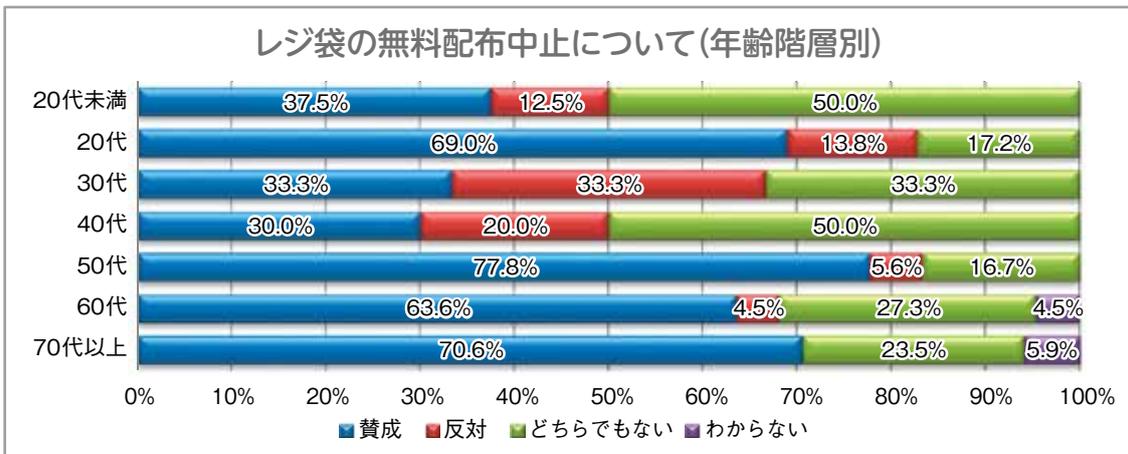
レジ袋の無料配布中止について



レジ袋の無料配布中止について「賛成」が62.6% (67名)と「反対」の9.3% (10名)を大きく上回っている。

(2) 年齢階層別データ

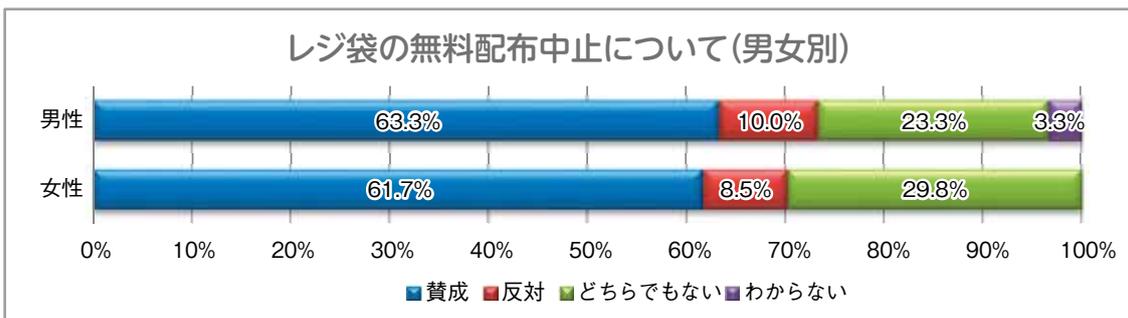
レジ袋の無料配布中止について(年齢階層別)



「賛成」の割合は50代で77.8% (14名)と最も高く、次いで、70代以上が70.6% (12名)、20代が69.0% (20名)となっている。

(3) 男女別データ

レジ袋の無料配布中止について(男女別)



男女とも「賛成」約6割、「反対」約1割となっており、大きな差は見られない。

問5

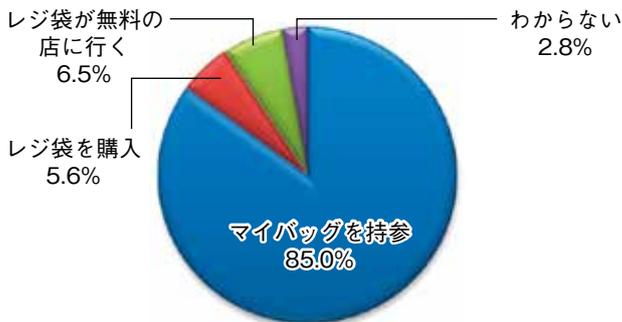
あなたは、いつも行っている店がレジ袋を有料化した場合、どうしますか。

次の中から一つ選んでください。(%)

- 1 マイバッグを持参 (85.0)
- 2 レジ袋を購入 (5.6)
- 3 レジ袋が無料の店に行く (6.5)
- 4 わからない (0.0)

(1) 全体データ

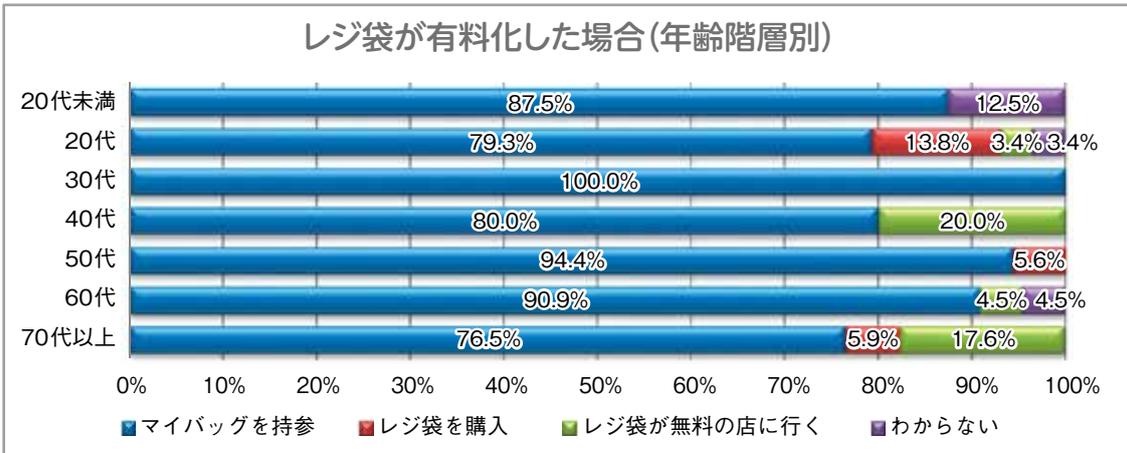
レジ袋が有料化した場合



レジ袋が有料化した場合、「マイバッグを持参」が85.0% (91名) と高い割合を占めているが、一方で「レジ袋を購入」が5.6% (6名)、「無料の店に行く」が6.5% (7名) となっている。

(2) 年齢階層別データ

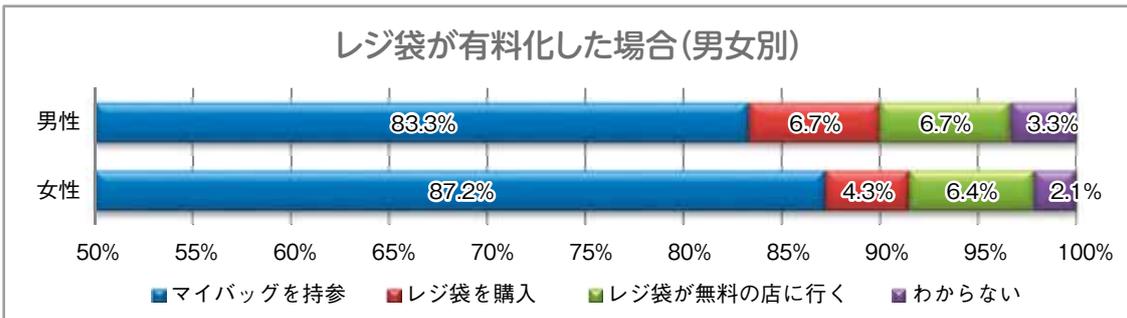
レジ袋が有料化した場合(年齢階層別)



各年代とも「マイバッグを持参」の割合が高いが、20代では「レジ袋を購入」が13.8% (4名)、また、「無料の店に行く」が40代で20.0% (2名)、70代以上で17.6% (3名) となっている。

(3) 男女別データ

レジ袋が有料化した場合(男女別)



男女とも「マイバッグを持参」の割合が8割を超え、高くなっている。

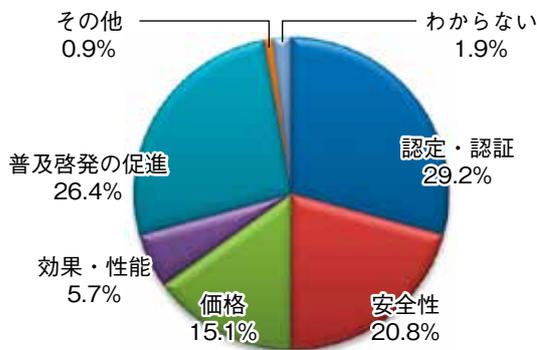
問6

リサイクル製品等環境配慮製品の販路拡大など、循環型社会ビジネスの振興のために必要なものとして、あなたの考えに近いものを次の中から一つ選んでください。(%)

- 1 国や県など公的機関の認定・認証 (29.2)
- 2 製品・サービスの安全性 (20.8)
- 3 製品・サービスの価格 (15.1)
- 4 製品・サービスの効果・性能 (5.7)
- 5 環境教育・環境学習の充実、普及啓発の推進 (26.4)
- 6 その他 (0.9)
- 7 わからない (1.9)

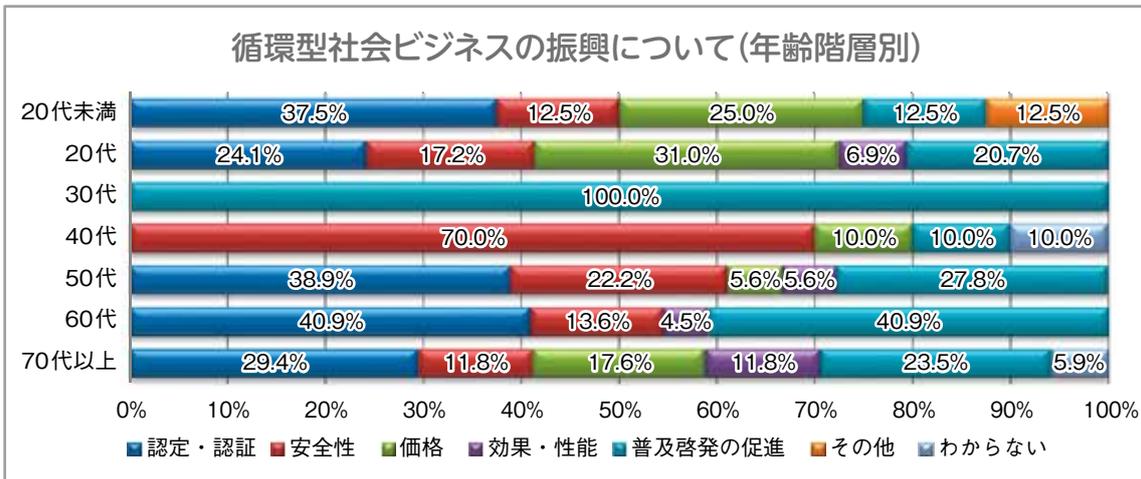
(1) 全体データ

循環型社会ビジネスの振興について



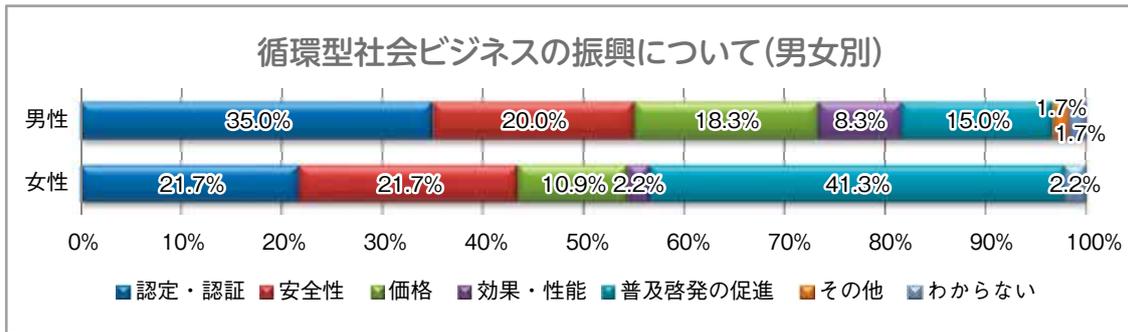
循環型社会ビジネスの振興に必要なものとしては、「国や県など公的機関の認定・認証」が29.2% (31名)と最も高く、次いで「環境教育・環境学習の充実、普及啓発の推進」26.4% (28名)、「製品・サービスの安全性」20.8% (22名)、「製品・サービスの価格」15.1% (16名)の順となっている。

(2) 年齢階層別データ



60代と30代では「環境教育・環境学習の充実、普及啓発の推進」、40代では「製品・サービスの安全性」、20代では「製品・サービスの価格」、その他の年代では「国や県など公的機関の認定・認証」の割合が高くなっており、年代によって考え方に差が出ている。

(3) 男女別データ



男性では「国や県など公的機関の認定・認証」が35.0% (21名) と最も高く、女性では「環境教育・環境学習の充実、普及啓発の推進」が41.3% (19名) と最も高くなっている。

問7

大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会から脱却し、循環型社会を形成する施策を進めていくことについて、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに近いものを、次の中から一つ選んで○を付けてください。(%)

- 1 現在の生活水準を落とすことであり、受け入れられない (0.0)
- 2 現在の生活水準を落とさない範囲で、出来る部分から推進すべき (46.7)
- 3 現在の生活水準が多少落ちることになっても、やむを得ない (28.0)
- 4 現在の生活水準が落ちることになっても、推進すべき (23.4)
- 5 その他 (1.9)
- 6 わからない (0.0)

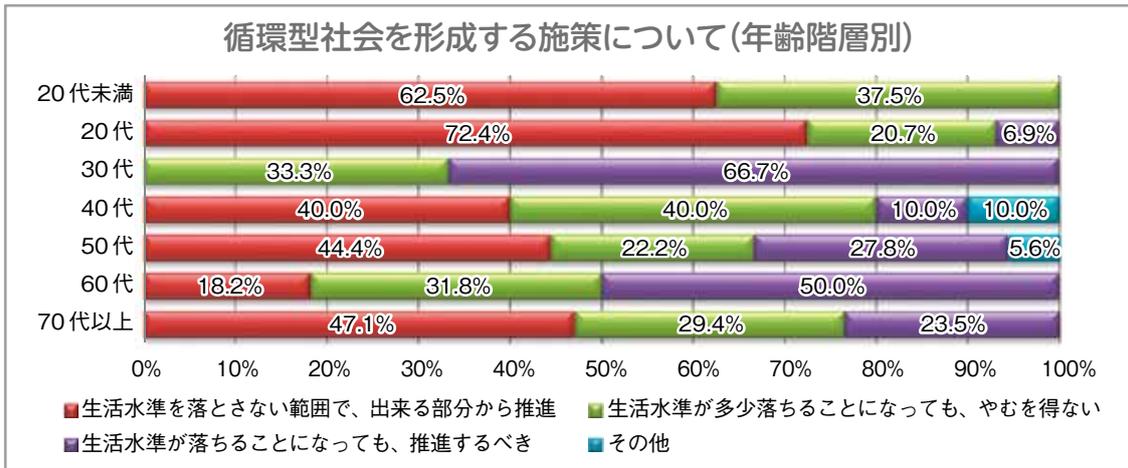
(1) 全体データ

循環型社会を形成する施策について



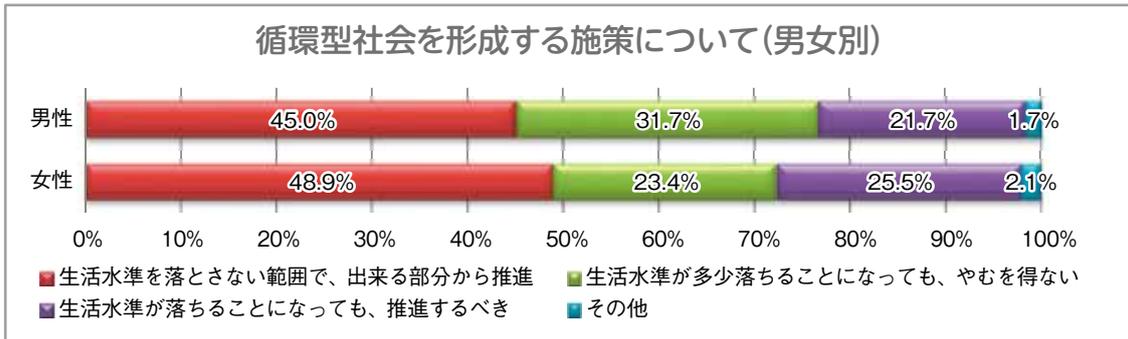
「現在の生活水準を落とさない範囲で、出来る部分から推進すべき」が46.7% (50名) と約過半数を占め、次いで「現在の生活水準が多少落ちることになっても、やむを得ない」が28.0% (30名) となっている。なお、「現在の生活水準を落とすことであり、受け入れられない」とする回答はなかった。

(2) 年齢階層別データ



「現在の生活水準を落とさない範囲で、出来る部分から推進するべき」と回答したのは、20代で72.4% (21名)、20代未満で62.5% (5名) と割合が高くなっており、また、「現在の生活水準が落ちることとなっても、推進するべき」は30代で66.7% (2名)、60代で50.0% (11名) と割合が高くなっている。

(3) 男女別データ



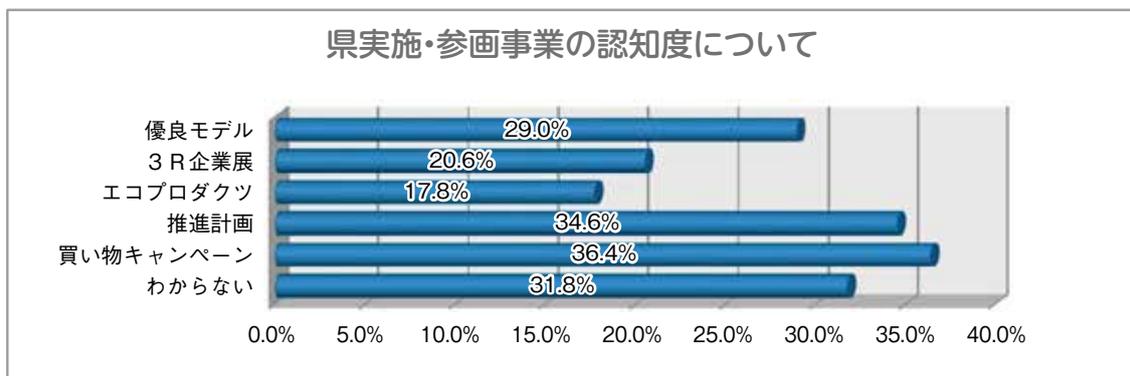
男女とも「現在の生活水準を落とさない範囲で、出来る部分から推進するべき」との回答が最も多くなっているが、「現在の生活水準が多少落ちることになっても、やむを得ない」との回答は、男性が31.7% (19名) と女性の23.4% (11名) より回答割合が高くなっている。

問 8

循環型社会の形成のために、県が実施、又は参画する次の事業（制度）のうちあなたが知っている（聞いたことがある）ものをいくつでも選んで○を付けてください。（%）

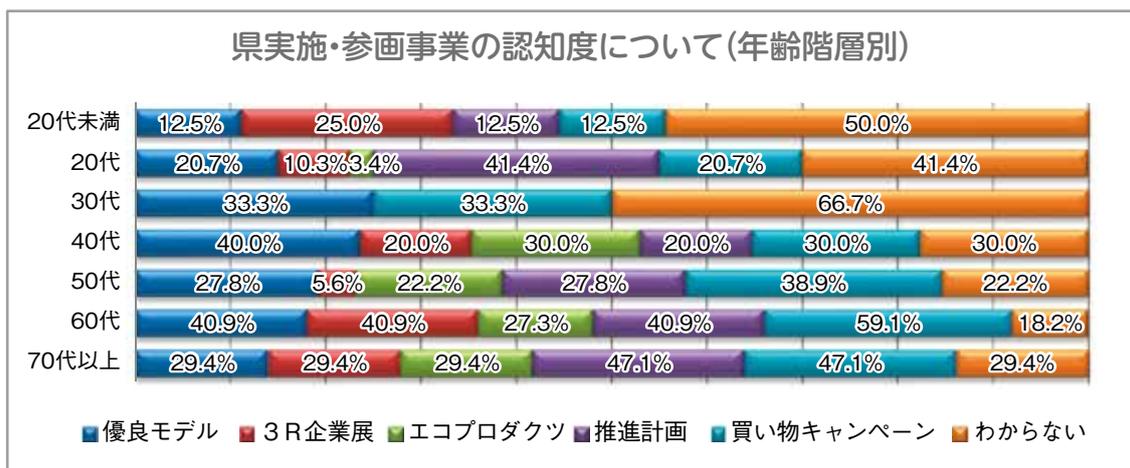
- 1 愛媛県資源循環優良モデル認定制度（29.0）
- 2 愛媛の3R企業展（20.6）
- 3 エコプロダクツ（17.8）
- 4 えひめ循環型社会推進計画（34.6）
- 5 環境にやさしい買い物キャンペーン（36.4）
- 6 わからない（31.8）

(1) 全体データ



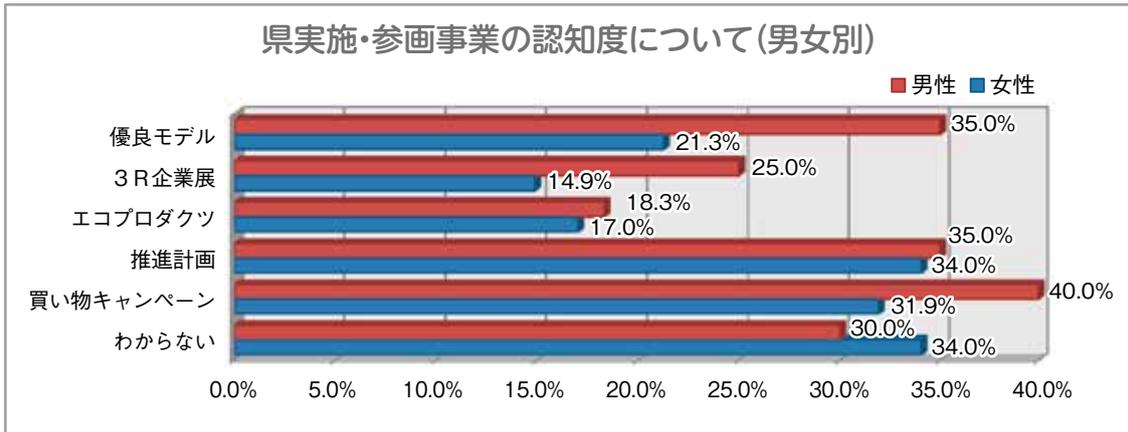
県実施事業のうち、「環境にやさしい買い物キャンペーン」が36.4%（39名）で一番認知度が高くなっている。しかし、どの事業も「わからない」との回答も31.8%（34名）となっており、各事業（施策）の認知度は高いとは言えない。

(2) 年齢階層別データ



「環境にやさしい買い物キャンペーン」は60代で59.1%（13名）、70代以上で47.1%（8名）、50代で38.9%（7名）の認知度となっている。また、どの事業も「わからない」と回答した割合は、30代で66.7%（2名）、20代未満で50.0%（4名）、20代で41.4%（6名）となっており、若年層での認知度が低くなっている。

(3) 男女別データ



男性では、「環境にやさしい買い物キャンペーン」が40.0%（24名）と最も認知度が高く、次いで「愛媛県資源循環優良モデル認定制度」と「えひめ循環型社会推進計画」が35.0%（21名）となっている。女性ではどの事業も「わからない」が「えひめ循環型社会推進計画」と並んで34.0%（16名）と最も高くなっている。

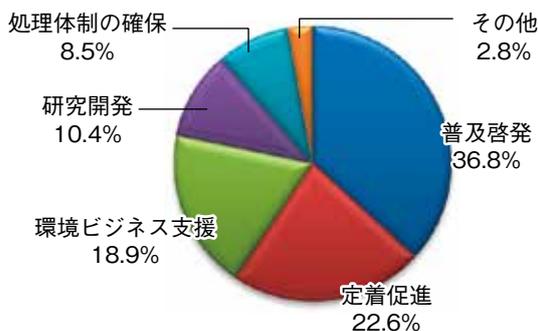
問9

循環型社会の形成に向けて、県は今後どのような施策を実施する必要があると思いますか。次の中であなたが最も重点的に行うべきと考えるものを一つ選んで○を付けてください。（%）

- 1 県民一人ひとりの環境意識を高揚させるため、環境教育や環境学習の充実、積極的な普及啓発活動及び情報提供（36.8）
- 2 市町での分別収集の徹底に加えて、地域の実情やごみの特性に応じた多様なリサイクルの定着促進（22.6）
- 3 環境にやさしい製品・サービスの普及や、ごみの減量化、リサイクルなどに取り組む環境ビジネスへの支援（18.9）
- 4 ごみの発生抑制や減量化、新たなリサイクル技術等の研究開発の推進（10.4）
- 5 不法投棄対策の強化や優良処理業者の育成など、ごみの適正処理体制の確保（8.5）
- 6 その他（2.8）
- 7 わからない（0.0）

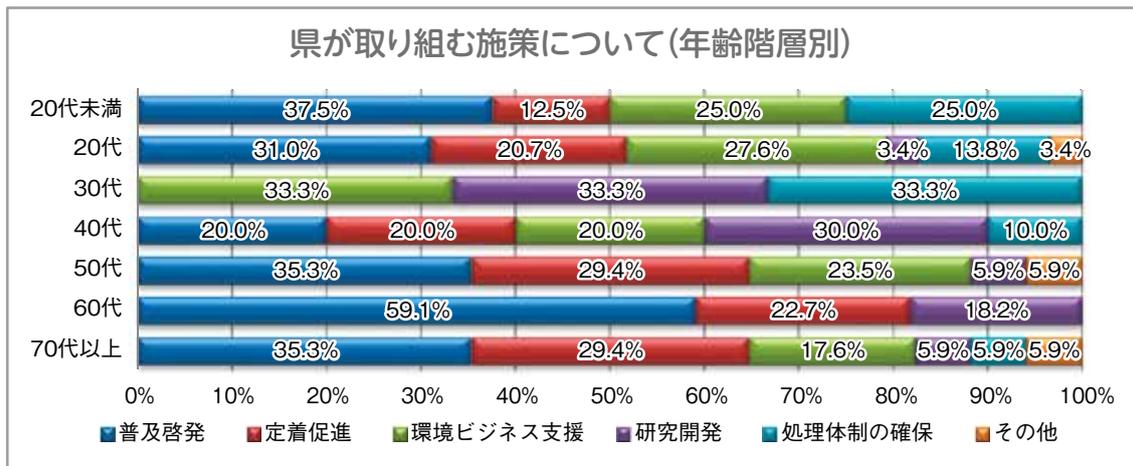
(1) 全体データ

県が取り組む施策について



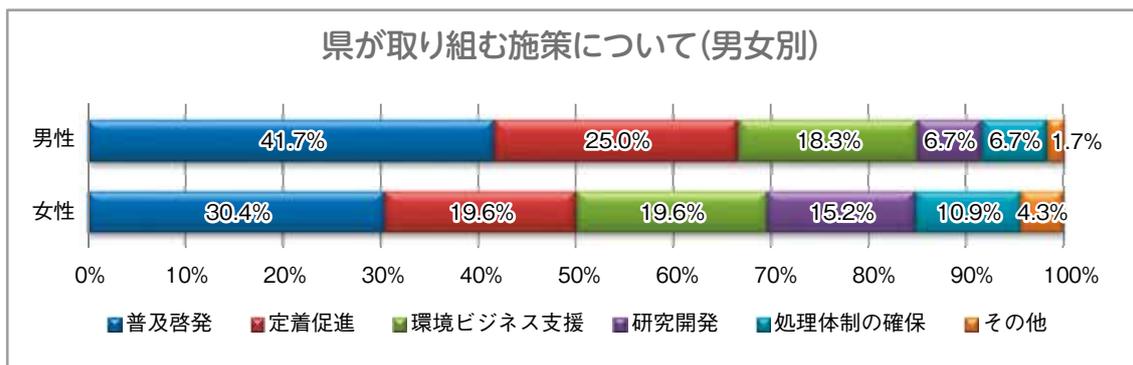
県が今後実施する必要がある施策としては、「県民一人ひとりの環境意識を高揚させるため、環境教育や環境学習の充実、積極的な普及啓発活動及び情報提供」36.8%（39名）が最も回答割合が高く、ついで、「市町での分別収集の徹底に加えて、地域の実情やごみの特性に応じた多様なリサイクルの定着促進」22.6%（24名）、「環境にやさしい製品・サービスの普及や、ごみの減量化、リサイクルなどに取り組む環境ビジネスへの支援」18.9%（20名）の順となっている。

(2) 年齢階層別データ



60代で「県民一人ひとりの環境意識を高揚させるため、環境教育や環境学習の充実、積極的な普及啓発活動及び情報提供」との回答が59.1%（12名）と高くなっている。

(3) 男女別データ



男女とも「県民一人ひとりの環境意識を高揚させるため、環境教育や環境学習の充実、積極的な普及啓発活動及び情報提供」と回答した割合が最も高くなっている。

自由意見

問3 あなたは、日頃の暮らしの中で、廃棄物の3Rを推進するために行っていることはありますか。

- ・6番と重複しているが、正しく分別するのは当然だが、ステーションで他人のまちがいを直している。間違いがかなり多い。
- ・町のリサイクル活動に参加している。
- ・生産元に考えを変えてもらうこと。
- ・廃品回収を利用している。
- ・ペットボトル回収。障がい者支援にだしている。
- ・長く使えるものを購入し、捨てない。

問6 リサイクル製品等環境配慮製品の販路拡大など、循環型社会ビジネスの振興のために必要なものは何でしょうか。

- ・全て重要な事だと思えますが、構造的な問題として、国や県の誘導がないと流通、経済、消費者上に問題が出る。
- ・「こういうことをしています。」というのをより多くの人に知ってもらう。

問7 大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会から脱却し、循環型社会を形成する施策を進めていくことについて、あなたはどのように思いますか。

- ・生産元の無駄を省く。
- ・大量生産、消費、廃棄型社会をやめても生活水準は落ちないし、むしろ質は向上する。考え方の問題。
- ・施策を進めていくべきだと思いますが、それに取り組みれば、何が良いのかを積極的に広報願いたいです。また、楽しみのフィードバック。

問9 循環型社会の形成に向けて、県は今後どのような施策を実施する必要があると思いますか。

- ・市町によって分別の方法がまちまち。県下で分別方法を統一することで教育が行いやすいのではないかと考える。
- ・実際には県民に相当な覚悟と負担が掛かるので地味だが有効的なPRと効果を徹底する。
- ・環境に優しい製品等とそうでないものについて、支援するのではなく、何らかの傾斜をつける工夫が必要でしょう。
- ・ごみ拾いを報道する前にごみ捨てを止める報道を。
- ・音楽やスポーツなど、みんなが関心があるものとか、かけ合わせたイベントを行う。